R O S É

文化・交流―新しい地域創造

# ロゼ

文化情報誌 ロゼ
*Art information of Fuji city*
*Culture Magazine* ROSÉ

**Vol.1 August 1992**

**創刊号**

文化の新たな開花をめざして……

Vol. 1

ロゼ 富士市文化情報誌 ロゼ 1992年8月発行(創刊)
発行 富士市文化振興財団 〒417 富士市永田町1丁目100番地 TEL(0545)51-0123㈹
企画・編集 富士市文化振興財団 ㈱グラフィックデザインキクチ

# Prologue

## 〝文化へのおさそい〝

私たちは「…文化…」と、文字や言葉で簡単に言っていますが、どういうものかと聞かれても、なかなかうまく答えられません。

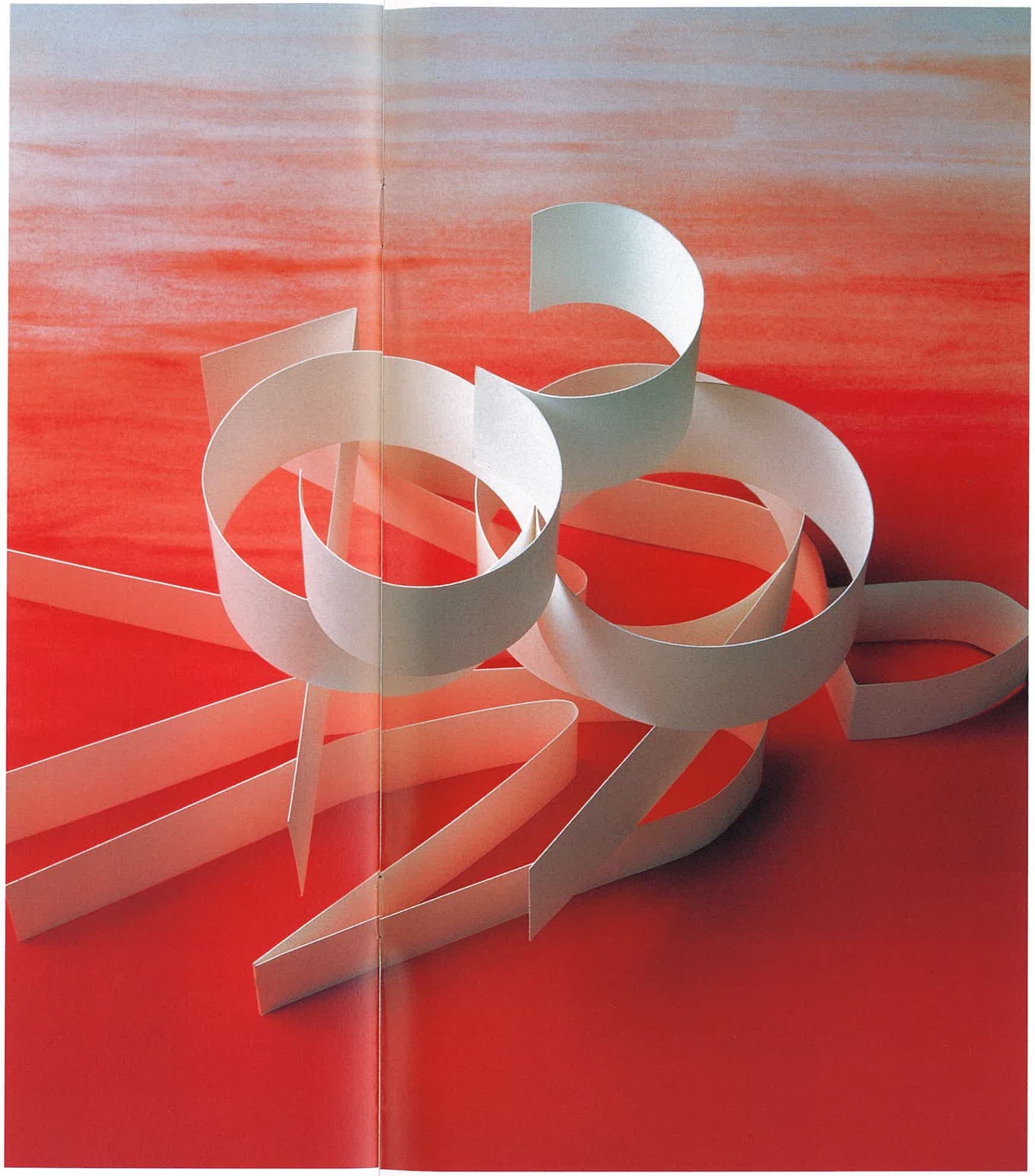
もの・考え・事柄・状況、その他いろいろなこと全てを含んだものが文化となっているからでしょうか……

ある書物には「人間本来の理想を実現して行く活動過程」とあり、文明が外面的・物質的な面を、文化は内面的・精神的な面を意味するとあります。

古来から受け継がれて来た文化、現在造られつつある文化、これから造って行く文化……

私たちはここでさまざまな文化を紹介し、観る・聴く・造る楽しみや喜びを共有し、その中にある「こころ」を、ひとりでも多くの方々に理解してもらうよう願っています。





## ごあいさつ

近年、市民の価値感や意識の変化がすすみ、
各層にわたって精神的、文化的豊かさを求める声が高くなってきております。
富士市でもこうしたライフスタイルの変化に対応し、文化会館の建設をすすめておりますが、
その容姿もみなさまのお目にとまるほどにできあがってまいりました。
本年4月1日には、「富士市文化振興財団」を設立し、会館の運営に備えるとともに、
市民の文化活動を積極的に推進する体制をととのえました。
このたび、文化の拠点としての会館を中心に、広範な文化情報をみなさまに提供するため、
ここに会館機関誌を創刊することになりました。今後、地域に密着した文化活動の紹介、
全国からの情報をもとに、多くのご意見をうかがい、より充実した機関誌づくりに励む所存であります。
この冊子が市民のみなさまの豊かな文化生活の発展に
少しでもお役にたてば幸いであります。

富士市文化振興財団
理事長
鈴木清見

## 「財団法人富士市文化振興財団」は……

市民のみなさんの文化活動を支援し、日常生活の中で文化に親しんでいただけるよう、各種の事業を計画しております。

**●普及事業**
市民各層が芸術文化を気軽に鑑賞し、参加できる場を提供するとともに、活動の輪が広がってゆくように努める。

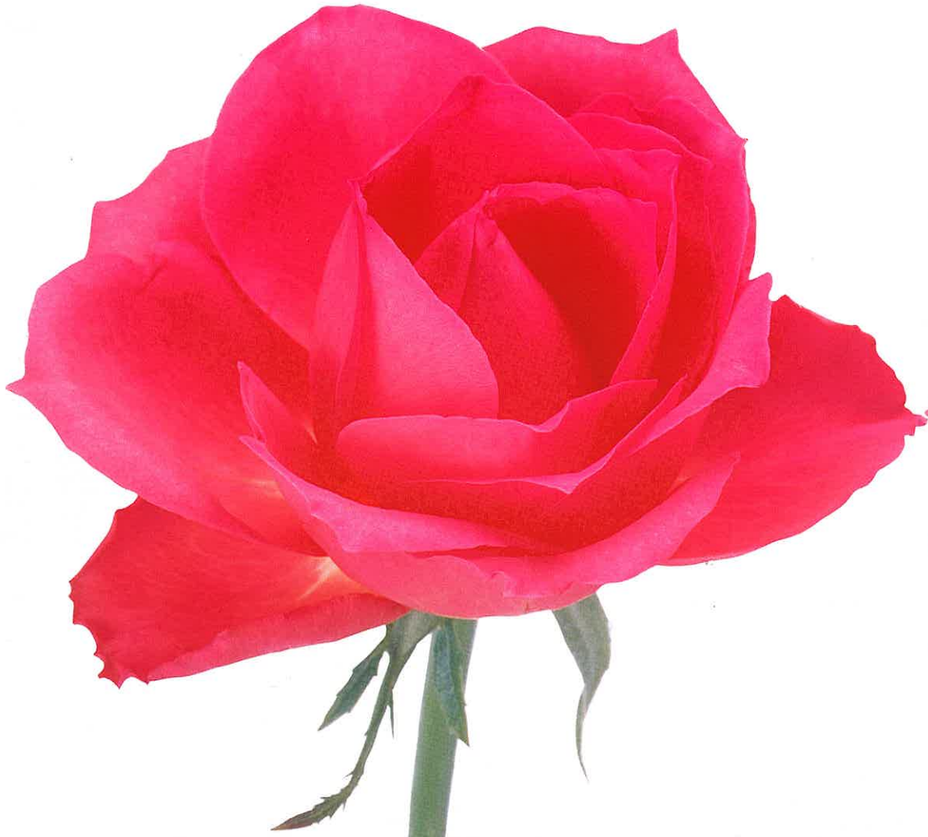
**●育成事業**
市民や文化団体などの育成をめざし、講座開催等の事業を企画する。また郷土の芸術家の発掘と支援を行う。

**●創作事業**
市民手づくりのオペラ・ミュージカルなど富士市にふさわしい創作芸術の制作支援を行う。

**●鑑賞事業**
地方では鑑賞する機会の少ない一流芸術家の招聘や作品展示などを行い、市民に優れた芸術文化を紹介する。

これらの事業のほかに、対外的な交流事業や、市民と一体となった活動をすすめるための広報事業を行い、施設貸出し、貸館なども含めて富士市の総合文化活動の発信基地をめざしてゆきます。

# 富士に咲く、華やかな劇場 ロゼシアター



七月四日の蒸し暑い土曜日の午後、愛称選定委員会は、市役所庁舎八階の会議室で開催。四時間余にわたり、熱心な選定作業が行なわれました。

開会のあいさつ、選定委員の紹介のあと互選により座長を富士市助役さんとし、早速選定作業が開始されました。

選考は、第一次・第二次・最終と三回に分けて行い、第一次選考では委員一人ひとりが九六八点の応募作品すべてに目を通し、〝富士市らしさを表わしているもの〟〝口にしやすく親しみやすいもの〟などの観点から各自五点を選出。さらに二次選定では通過した三十余点を一点ずつ検討し、三点に絞り込みました。

最終選考に残った三点のうち、最優秀作品には、富士市の花、バラに因んで、華やかな劇場をイメージした中野の矢部重光さん作の「ロゼシアター」に決定しました。

応募作品はいずれも市民の皆さんが知恵を絞った力作揃いで、選定委員の皆さんも絞り込みに大変苦労されたようです。しかし、「ロゼシアター」のもつ明るく華やかでオシャレな雰囲気が皆さんの一致して推すところとなり、選定委員会は午後五時半過ぎに幕を閉じました。

## 音楽一家のご主人が命名

「ロゼシアター」の名づけ親、矢部重光さん(五十四歳・富士市中野三一二一七)はご家族で応募していただきました。

矢部さんの奥様、薫さんは音楽鑑賞が趣味で、コーラスグループに参加していました。長女の真知子さんは、四歳でピアノ、小学生のときには琴を習い、長男の哲也さんは大学でバンドを結成し、ボーカルを担当しています。二女の貴子さんは現在大学でピアノを習っている、といった音楽一家です。

その中で、釣りだけが趣味というご主人の重光さんの愛称が、見事決定したもの。「ロゼシアター」が完成したら、家族揃ってコンサートを聴きに行きたい、と今から楽しみにしていらっしゃいます。





# 人形オーケストラ、「ロゼシアター」のプレリュード(前奏曲)を奏でる。

人形の製作風景

プロの人形作家に依頼するのではなく、市民の有志の方々による人形オーケストラづくりが、いま、着々と進められています。一般公募であるため、材料や作り方は全て自由。個性あふれる作品大歓迎ということです。

すでに呼びかけに応えて、市民三十人ほどが〝オーケストラ団員〟として登録。今のところ女性が九割を占めていますが、もちろん性別・年齢も問いません。ただし大きさに制限があり、座った状態で高さ十八センチ、幅十センチ、奥行き十二センチ程度。立ちポーズは高さ二十三センチ以内です。作り方の一例として、ハリガネを元に形をつくり、綿を巻きます。和紙で服を型どりし、顔や手は粘土で作ります。やはり難しいのは楽器づくりだとか。演奏させたい楽器によって人形のポーズを決めます。難しい分だけ楽しいとも言えますね。

人形オーケストラの編成は七十名。初演はもちろん平成五年秋、「ロゼシアター」のオープニングを飾ります。

## ロゼシアターQ&A

**Q オープニングにはどのような催し物を行なうのですか?**

**A** 平成5年11月「ロゼシアター」のオープニングにふさわしい催し物を考えています。

国内・外の一流アーティストの公演や、作品展だけでなく、市民参加のオープニングプログラムを計画しています。クラシックコンサートや演劇、古典芸能などこれまで富士市では観られなかった催し物を検討しています。

**Q 会館利用者の駐車場はありますか?**

**A** これまで文化施設の駐車場不足は大きな問題でしたが、「ロゼシアター」の駐車場としては、中央公園の駐車場利用も併せて、会館周辺約500台の駐車スペースを確保してゆく予定です。

**Q 座席の座り心地はいかがですか?**

**A** すばらしい舞台芸術は気持ちよく観賞したいもの「ロゼシアター」の座席は、従来よりも広く設計してあります。大ホール1階を例にとると、幅510㎜、前後幅960㎜のゆったりとしたスペースとなっております。

# 「ロゼシアター」、骨格だけでも大迫力!!

建設現場の近くを通ると、いつも思ってしまうコト…中はどうなっているんだろう?
どのへんまで出来ているんだろう…?今まで広報や紹介パンフレットだけで見ていた完成予想図とは違い、
当然現場は原寸大で存在するわけだから、迫力はスゴイだろうな……などと胸をワクワクさせながら、工事の
統括所長をなさっている渡邉正廣さんをたずね、お話をうかがいながら実際の工事状況をリポートすることにしました。

▲ ロゼシアター正面　工事用の足場もはずされ、その姿が見え始めてきた。青葉通りと平行して長く伸びたガレリア部分は約150mもあり、外壁はスペイン産の白御影石が5000枚も使用されている。会館全体のコンクリートは、33,000㎥(生コン車で約6600台分)も使われている。

▶大ホール　舞台から客席に向かって撮影、舞台の広さは約930㎡、客席は約1280㎡もある。プロセニアム（舞台と客席の仕切り）は可動式で幅・高さが調整できる。

〈ガレリア、2階〉ガレリアとは、イタリア語でガラスの高い天井をもつアーケードを意味する。この場所からは富士山の眺望が素晴らしく、フロアの長さは、約100mある。壁には、全面に美しいタピストリーが飾られる。

〈中ホール〉中ホールの広さは舞台が850㎡、客席は680㎡この舞台も可動プロセニアム式、渡邉所長さんのお話にレポーターの美保ちゃんもビックリ！

## 金鋏式でボルトを締める鈴木清見理事長。

平成2年12月12日着工以来順調に工事が進み、平成4年6月1日に金鋏式(一般建築では上棟式にあたる）が鈴木清見理事長はじめ関係者200名の出席で行なわれた。神事につづき大ホール舞台の最上部にあたる鉄骨の梁に金銀の鋏(ボルト)が取り付けられ、安全祈願が行われた。
7月末の工事進捗率は38%、平成5年夏の完成を目指している。

## 統括所長、印象を語る。

この建設現場の渡邉正廣統括所長に富士市とロゼシアターの印象をうかがいました。

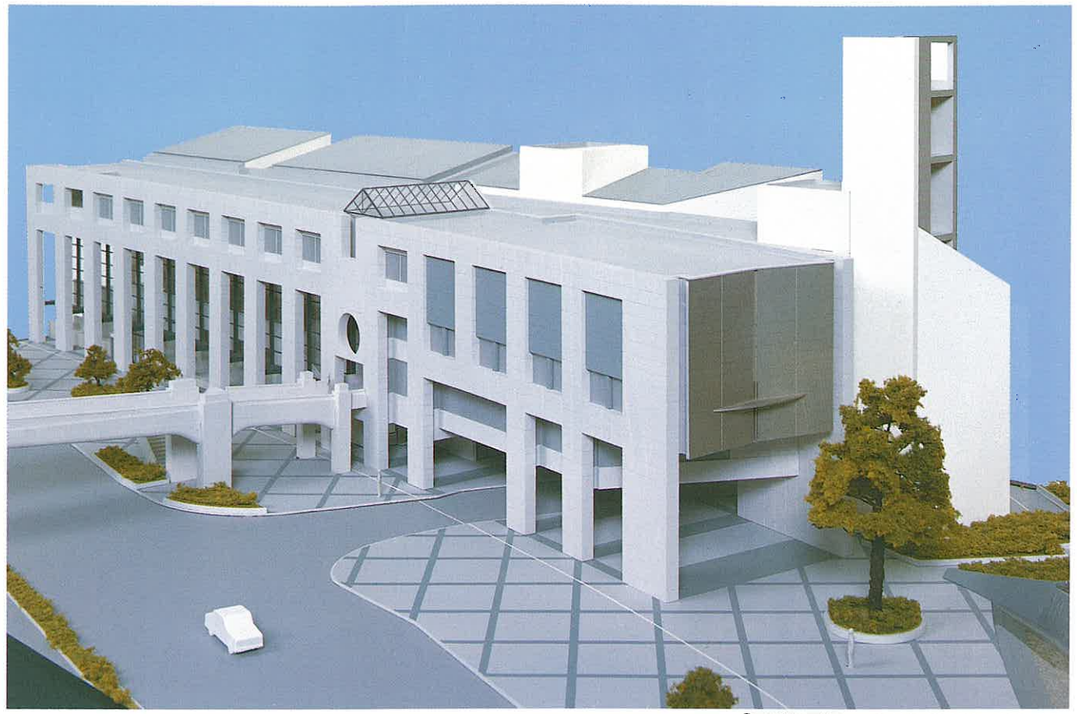
『秋田で生まれて東京の会社へ入社し、今回この工事のために一年ほど前から富士市に来ていますが、いい所ですね。私の好物の魚も美味しく、酒もすすみますね。この雄大な富士山に見守られているなんて、うらやましいですよ。工事は皆さんに頑張っていただいて、順調に進んでいます。劇場建築は普通の建物に比べると構造が複雑なので工事も大変ですが、何と言っても造る喜び、手がけたことの喜びの方が大きいですね。作業員は地元の方が多いんで、完成した時には一緒になって喜べると思いますよ。期待していて下さい。』

## 今回のリポーターは……

今回工事中の現場をリポートしてくれた玉舟美保嬢。富士市広見町の方でOL4年生。夏はテニス、冬はスキー、バンドではボーカルを担当など、いろんな事に興味を示す活動的な女の子。何が落ちて来るかわからないョ…などと言われながらも、しっかりリポートしてくれました。



# 文化の芽はぐくむ音響とスペース



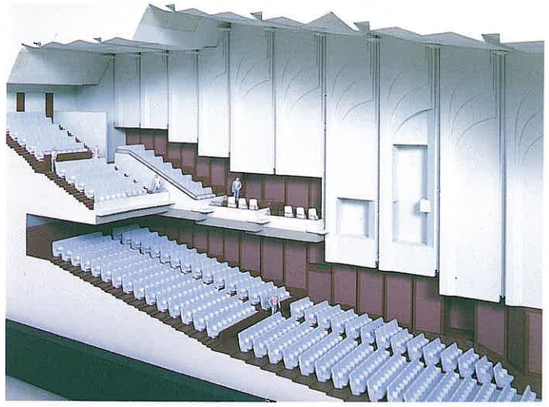
「ロゼシアター」の外観模型!(西側部分)

平成五年十一月オープンを目指し、建設が進む文化会館。愛称も「ロゼシアター」と決まり、市民の文化活動の輪を広げ育くむ拠点として、すばらしい空間が生まれつつあります。ここでは精巧な模型を見ながら、基本設計による特徴と音響効果などを紹介します。

「ロゼシアター」は、あらゆる文化活動の鑑賞と発表の場を用意しました。大ホールは音楽を主体に、クラシックのコンサートやバレエを上演するために考えられています。ホールの音響のよしあしは形で決まると言われますが、大と小のホールはシューボックス型(靴箱型）といわれるもので、このシアターの音響コンサルタント(豊田泰久氏)は、「経済的にも科学的にも証明されている最適な形です。」とおっしゃっています。多目的ホールとしての役目も考え、音響反射板の収納方法や素材を工夫しました。従来の舞台上部に吊る形では軽い素材を使っていましたが、効率的で良い反射音のために、重く固く分厚い素材を使用。そのため走行式音響反射板を採用しました。この方式は、東急文化村、鎌倉芸術館などにも使われている技術で、音響設備では、新しい方式となっております。中ホールは演劇主体に設計され、言葉がはっきり聞きとれるようになっており、響き自体は短くなりますが、ここでもこの方式を採用、音楽演奏にも対応できるようになっております。

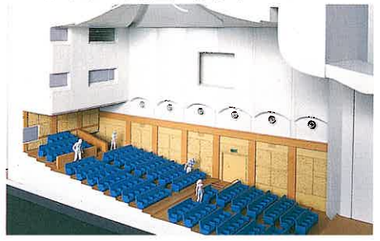
小ホールは市民の自主文化活動を主体に、小規模ながら天井を高くし、音響にも十分配慮した全国でもトップクラスの音だと思います。さらによい音づくりと地震対策に効果がある、各ホール独立した建物となっており、隣のホールからの音や振動をカットし、遮音徹底に奈落（地下室）も独立してあります。

もう一つこの会館の大きな特徴に、ガレリア（共通ロビー）があります。



大ホール模型

↑中ホール模型　↓小ホール模型



青葉通りと平行して長く伸びたガレリアは、富士山の眺めもすばらしく、市民はもとより市外や海外からの人にも魅力的なゾーンです。ガレリアにはカフェテリア・談話コーナー・AV情報コーナー等が設置され、市民が気軽に利用できる開かれたスペースです。来年秋には「まちの顔」として「ロゼシアター」が大きく花開きます。

# 文化の拠点づくりに、人材の蓄積を

**「富士市の文化を考える」をテーマに何回かにわたり、富士に「縁」ある著名人にインタビューを依頼します。第一回目は、メディア・プロデューサーとして活躍中の残間里江子さんにお願いしました。残間さんは仙台で生まれ、ご家族と共に富士に来られ、中学・高校の六年間と、その後、SBS時代の二年間、計八年間を過ごされました。**

**「当時の富士市における学校教育に文化が大切だと云う根本的思想がなかったことと、私自身も校則に従順だったせいで、富士市にいた間は文化的な活動のそばにいなかったんです。この間、友人達と映画の話をしていて気づいたんですが、富士にいた六年間映画一本観てないんです。時代の違いはあるにせよ、当時の私は文化が人生の潤いであったり、生きることと等しい位の影響力のあるものだとは思いつかなかった。それだけ文化に対するアクセスがなかった。でもこれは富士が特別ということではなく、地方の街の普通の姿なのかもしれません。」**

**では現在の富士市の文化について―**

**「全国の地方自治体の中で突出して見えないし、ベーシックなところでの文化状況は昔と変わってないみたいですね。東京から見ていると頑張っている市や県って結構見えるものなのに、富士市は見えてこない。街自体で文化に取り組む姿勢が、全体から見ると希薄ですね。」**

**これからの課題も含め、文化会館のあり方については―**

「文化を育てる気持ちはあっても、物理的空間がないと拠点は生まれにくいものです。せっかく文化会館ができるのですから、単に外から与えられたイベントやコンサートをやるのではなく、受け皿としてのホールに思い入れを持つ人を企画セクションに置いて、自分達の中でしっかりとしたシステムづくりをすることが先決です。モノを創れる集団とのネットワークや中央と回路をつないで自主企画のできる人材を育てることです。人材の蓄積を柱に、プログラムを豊かにもつこと。基盤が自分達の中にないうちは、外から何を持って来ても持続しません。流すだけではなく、創ってゆくにはどうするか、このホールを使って何ができるか。企画担当の人は多彩なプログラムを持つライフスタイルや生活感覚があり、人と人とのつながりや回路をつなぐに足るオリジナリティのある人材が必要で、そういう人を何人蓄積できるかが課題ですね。管理するだけの貸ホールはいずれ朽ち果てます。モノを創ることを本当に知っているパワーのある人と、自分達の力でクリエイトできる人を何人集められるかですね。

この建設構想もいろいろと検討されたんでしょうが、施設というものはその土地に合う適性規模ってあると思うんです。一六〇〇名の客席を埋めるのは大変です。世の中は八十年代、ソフト・ソフトといってきましたが、ハードがしっかりしていなければ、ソフトは充分に表現できません。とりあえずしっかりした器ができるわけで、あとはこの空間を立体的に使う方法論を考えて行くことでしょうね。それから、自治体は市民のコンセンサスをとることが大切とよく言いますが、創る側に素人を入れてもはじまらないことって多いですよ。市民のコンセンサスが市民参加だと短絡して考えない方がいいと思います。今は情報過多で、一般の人も情報の洗礼を受けてはいますが、そういう人達に限って勝手なことを言うだけで、結局は中庸になって面白くないものになります。プロで構成することはとても大切なことです。市民参加という口あたりのいい言葉で、決める能力のない人に集まってもらって、かえって施設が変な風になっていくことは大いにあり得ることです。プロは面白くするために命を張り、観客は面白くなければ帰る。こういう緊張感が本来の姿なのに、アマチュアがステージに上り、プロは媚びて客席に降りるという構造がダメにしている部分がいっぱいあります。真のプロの価値が上らない限り、文化は向上しません。考えなければいけないのは、きちんと構成していけるプロを早く育てること。キャパシティの問題ではなく、クオリティの問題です。そして運営を考え、収益性を見すえたいいものを創ることです。それにはマネイジメント能力と、クリエイティブ能力の両面を持った人が館長にならないと難しいですね。否定ばかりでも仕方がないし、持ち上げても仕方ないですが、危機意識を持ってもらうことは必要です。建物はしょせん建物、それを意識づけていかないと意味がありません。クリエイティブな人材確保と多彩なプログラム創りが全てでしょうね。」

**―どうもありがとうございました。**

メディアプロデューサー

## 残間里江子

ざんま りえこ/仙台市生まれ。中学・高校の6年間を富士市で過ごす。明治大学短期大学法律科卒業後、SBS(静岡放送)を経て、「女性自身」編集部勤務。1980年企画制作会社キャンディッド設立、代表取締役社長。主なものに山口百恵自叙伝『蒼い時』、創刊号で田中角栄独占インタビューが話題となった雑誌「Free」編集長、各界で活躍する105人の働く女性連続トークセッション「地球は私の仕事場です」、横浜市政100周年記念イベント・スーパーオペラ「海光」など、出版・映像・文化イベントをプランニング・プロデュースする。1991年には各界の第一人者134人のパネリストによる連続フォーラム「21世紀への伝言」をプロデュース。ここ数年はホテル・リゾート・都市開発のプロデュースも手掛け、総理府・通産省・日本道路公団・東京都・国土庁など行政諸機関の委員も務めている。





# 歌舞伎の危機

明治以降、歌舞伎は、いくたびか滅びの危機にあるといわれながら今日まできた。その歌舞伎が今、ブームとさえいわれる盛況の下にある。

もともと歌舞伎は、江戸の民衆が愛し、支持したその時代の現代劇であった。江戸という時代の環境とその変化の下で、歌舞伎は、そのようなものとして育ち、それ故に、西欧の演劇とは異質な特色を持った。

歌舞伎は、多くの名優と作者によって、その特色を伝承し、それに創造を加えながら、文楽、能・狂言、邦楽・邦舞等々の古典芸能とともに、近代以前の伝統を重層的に継承しつつ、明治以降の新派、新劇、歌劇等の多様化した芸能と共存してきた。

それは他国に例のないわが国芸能の特質ではあるとしても、かつて歌舞伎を支え、歌舞伎が生きた社会的基盤の変化は、例えば如何ともしがたい時代感覚との遊離等々、歌舞伎を滅びの危機に置き続けてきたのである。

明治三十六、七年の五世菊五郎・九世団十郎・初世左団次、昭和二十四年の七世幸四郎・六世菊五郎等々、それまでの歌舞伎を背負った名優の死に際して、また、新派、新劇の登場、第二次大戦、映画・テレビ・スポーツの進出など歌舞伎をめぐる社会的環境の変化とともに、歌舞伎滅亡の論議は、繰り返されてきた。それでも、俳優、興行者その他の関係者の懸命な努力は、観客層のひろがりにも支えられて、歌舞伎を国際的にも評価の高い「わが国の誇るべき文化的遺産」として、ここまで維持してきたといっていい。

勘三郎、松緑の死とともに、また一つの時代を終えたと見えた歌舞伎は、今、平成の民衆のなかに、新しい道を歩きはじめたのであろうか。

そうであるとしても、その道は、険しい。松緑が逝った平成元年当時の歌舞伎公演は、毎月三〜四劇場で併演されるのが例であった。今は、月八公演ということさえある。それを支える歌舞伎俳優の総数は、国立劇場での研修修了生六十人余を加えても、二百四十人余。二十年前に比して七十人近くを減じ、しかも主役級の俳優はともかく、脇を固める俳優の質量の不足は深刻である。俳優だけではない。竹本・長唄・清元・常盤津・鳴物などの音楽、大道具・小道具等の舞台美術も後継者の充実と確保に苦しむ。一月に三〜四公演をようやく維持できた陣容でブーム下の多くの公演の質を高め、その公演を通じて、父祖が心血をそそいで伝承し、創造してきた古典の芸を受け継ぎ、発展させることが可能であろうか。それができなければ、歌舞伎は、盛況の下で、その盛況に対応するために、これまで懸命に維持してきた貴重な財産を食いつぶすしかない。それは、ブームがバブルと破れることを意味する。

歌舞伎は、決して滅びることはないであろうが、変わる。その変わり方に、私は絶望はしないが、楽観的でもない。

富士市文化振興財団理事

## 佐野文一郎

さの ぶんいちろう/富士郡上野村(現富士宮市)生まれ。66歳。昭和25年、東大法学部卒業後文部省入り。文化庁長官、文部省事務次官、国立劇場理事長、日本芸術文化振興会理事長を歴任。現在、富士市文化振興財団理事。東京都在住

# EVENT INFORMATION

富士市のいち早くホットな文化情報を満載

## ●オープニングプレイベント●

### 「映画音楽と名曲の夕べ」

オープニング一年前記念コンサート

我が国唯一のポップス・オーケストラ、東京室内管弦楽団がクラシックはもとより、映画音楽、ニューヒット曲から懐かしのスタンダードまで、あなたのリクエストにお応えします。

●11月1日(日)PM2:00開演（1時30分開場）
●富士文化センター大ホール
●入場料2,000円(全席自由)
●チケット発売開始9月1日

※このコンサートに向けて、財団としてリクエストを募集しています。参考までに、去る6月6日に行なわれた「新人演奏家と子どもたちのコンサート」でのリクエストは、次のような状況です。

1位 コンドルは飛んでゆく、となりのトトロ　2位 風の谷のナウシカ　3位 ドラゴンクエストII・III　4位 G線上のアリア　5位 エデンの東　6位 イマジン、エーデルワイス他

8月末日までリクエストを受付ていますのでご応募下さい。リクエスト用紙は、市内各公民館、市役所、文化振興財団にあります。リクエストをいただいた方から抽選で111名をご招待します。

### 「ふじ少年少女芸術劇場」

学校コンサート

富士市内の学生に優れた音楽芸術を鑑賞してもらい、生演奏のすばらしさ、鑑賞マナーの大切さを身に付けるため開催されるものです。

合唱「上野の森混声合唱団」　10月12日　元吉原中　富士中
打楽器「東京パーカッション・シンフォネット」
10月29日　吉原三中　30日　吉原二中　吉原東中
11月12日　大渕中　13日　岳陽中　田子浦中

### 「パンフルート&シンセサイザーコンサート」

出演：藤山明（桐朋音大フルート科卒）フルート
上野善己・シンセサイザー
●10月24日(土)18時30分開演　●新富士駅ステーションプラザFUJI　やすらぎ広場　●入場無料

### 「Xmasハンドベル・コンサート」

出演：関東学園ハンドベル・クワイアー
可愛らしい天使達の、奏でるハンドベルの調べで、素敵なクリスマスのひとときを、お過ごし下さい。
●12月22日　●新富士駅ステーションプラザFUJI　やすらぎ広場　●入場無料

### 「新人演奏家と子どもたちのコンサート」満員の聴衆を魅了

第一回オープニングプレイベントとして、6月6日富士文化センターにおいて、「新人演奏家と子どもたちによるコンサート」が、開催されました。これは富士市と富士市文化振興財団が主催する初の自主事業で、今春音楽大学を卒業した市内出身の新人演奏家と子どもたちによるファミリー的なジョイントコンサートとなりました。

## ●インフォメーション●

### 富士文化センター

9・6(日) 親子で名曲を楽しむジョイントコンサート
19(土) 市村ひろみジョイントリサイタル
22(火) エムパイア・ブラス・クインテット
26(土) 富士フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会
27(日) ハリーナ・チェルニー＝ステファンスカ
10・2(金) 第5回勤労者芸能祭
4(日) 富士市中学校音楽発表会
11(日) 望月達也バロック音楽のタベ
15(木) 静岡県・浙江省友好提携10周年 杭州雑技団公演
18(日) 富士市小学校音楽発表会
22(木)～ 第26回富士市総合文化祭
22(木)民踊　23(金)演劇　24(土)演劇　25(日)邦楽、民謡
11・13(金) 佐野系代琴・長谷川寛ジョイントリサイタル
15(日) 第9回ふるさと芸能祭
20(金) フラワーコンサート

### 中央公園

10・10(土) 星空のコンサート(雨天・文化センター)
●お問い合わせは富士文化センター 61-6262

### 吉原市民会館

10・16(金) 第26回富士市総合文化祭
16(金)民踊　17(土)音楽　18(日)詩吟
11・15(日) 富士地区高校演劇合同発表会
●お問い合わせは吉原市民会館 52-0740



# Pick Up People

●シリーズ・富士の文化活動に参加する人々①

## 富士デッサン学習会

富士市にも、絵画・音楽・文学など、グループやサークルとして、文化活動を展開している人達が沢山います。今回は五年前に発足した富士デッサン学習会を紹介いたします。

### 年齢を越えて集う仲間の顔に、描くことの楽しさが輝いている。

五年前に現事務局・城所満氏とその同志七人で発足した富士市で最初のデッサン会です。

それまでデッサンを、本格的に学習できるサークルが静岡、清水にしかなかったことが設立のきっかけとなりました。

以前は、静物なども描いていましたが、現在は人物中心で、一ヶ月おきに着衣と、裸婦を交互にテーマにしています。

参加者の年齢層も厚く、十二歳の女子中学生から、八十歳の方まで幅広く、今までに二百人ぐらいの人たちが参加しています。

またプロ級から初心者まで、レベルを問わず参加しており、油絵、水彩画、彫刻、写真に至るまで、制作手法にもこだわらない自由な雰囲気が、この会の特長です。

その他にも、この会のデッサンをベースに肉付けした作品を展覧会に出品したり、個展を開いている作家もおり、言わば富士市における芸術活動の、母体の役割を担っています。

非会員制で運営されているため、参加希望者は月一回の定例会に会費を支払ってそのつど自由に参加する事ができます。

発足二年目に、展覧会を開催しており、五年目にあたる今年あたり、二回目の展覧会を計画しています。詳細及び、問い合わせ先は下記のとおりです。

### 描くことの楽しさを体験してみませんか？

●日時／毎月第三日曜日 PM1:00開催 ●場所／吉原市民会館2F第2会議室
●参加年齢層／12歳～80歳 ●制作対象／人物(隔月で着衣と裸婦を交互)
●会費／非会員制、一回1,000円(但し裸婦は2,000円)年会費・入会費はなし
●その他／事前の入会手続き、予約等不要・当日に申し込み可
問い合わせは 城所満(富士市国久保1-7-3 TEL 0545-52-8419)まで

### 編集後記

市民のみなさんの応募により「ロゼシアター」が決まった。財団主催のプレイベントの入りは上々、この出来事にスタッフの中には夏だというのに幸せぶとりが出た！▼本誌のタイトルも「ロゼ」、名前にふさわしいシャレたマガジンにしたい。乞うご期待！▼プレイベント第2弾、ミュージカル「サウンドオブミュージック」の前売券が7月初めに完売した。その後も問い合せ殺到という嬉しい悲鳴、チケット買えなかった方ゴメンナサイ▼本誌の発行年4回を予定、合い間にイベントニュースなど随時発行してゆく、みなさんからの情報、取材要請大歓迎デス▼日に日に出来上ってゆく会館に、プレイベントの企画にも自然と力が入る。オープニングまであと1年2ヵ月、ホップ・ステップ・ジャンプでGO！GO！

富士市文化情報誌 ロゼ
1992年8月発行(創刊)
発行
富士市文化振興財団
〒四一七
富士市永田町一丁目一〇〇番地
TEL(0545)51・0123㈹
企画・編集
富士市文化振興財団
㈱グラフィックデザインキクチ